

○令和8年度第1回つくばみらい市総合教育会議

- | | | | |
|---|-------|---------------------------------|--------|
| 1 | 日 時 | 令和8年5月25日（月）午前9時30分から午前10時30分まで | |
| 2 | 場 所 | つくばみらい市役所伊奈庁舎 3階大会議室 | |
| 3 | 出席委員 | つくばみらい市長 | 小田川 浩 |
| | | 教育長 | 町田 幸子 |
| | | 教育長職務代理者 | 高橋 秀光 |
| | | 委員 | 久下 伸子 |
| | | 委員 | 安河内崇代 |
| | | 委員 | 飯田 文夫 |
| 4 | 欠席委員 | 無 | |
| 5 | 傍 聴 人 | 無 | |
| 6 | 出席職員 | 教育部長 | 杉田 卓生 |
| | | 参事 | 荒井 弘勝 |
| | | 学校総務課課長 | 海老原 弘 |
| | | 学校総務課課長補佐 | 大久保 正道 |
| | | 教育指導課課長 | 佐藤 志津子 |
| | | 教育指導課課長補佐 | 中島 貴子 |
| | | 生涯学習課課長 | 千葉 裕康 |
| | | 生涯学習課課長補佐 | 飯泉 克典 |
| | | 図書館館長 | 舞山 菊男 |
| 7 | 事務局職員 | 学校総務課長補佐 | 堀越 卓 |
| | | 学校総務課係長 | 古谷 圭佑 |
| | | 学校総務課主事 | 金澤 和 |
| | | 学校総務課主事 | 関澤 咲音 |
| 8 | 議 事 | (1) 令和8年度 教育施策に関する意見交換 | |
| | | (2) その他 | |

<p>堀越学校総務課長補佐</p> <p>小田川市長</p>	<p>【令和8年度第1回つくばみらい市総合教育会議の開会宣言】</p> <p>ただいまから、令和8年度第1回つくばみらい市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、市長より、ごあいさつをお願いいたします。</p> <p>【あいさつ】</p> <p>本日は、第1回つくばみらい市 総合教育会議に ご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>教育委員の皆さまには 日頃より本市の教育行政にご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>さて、今年度から、英語教育推進校がスタートいたしました。子どもたちは、日々 楽しみながら英語を学んでおり、積極的に英語に親しむ姿が見られます。今後も、子どもたちが自信を持ってコミュニケーションがとれる英語力を身に付けられるよう、さらなる英語教育の充実を推進してまいります。</p> <p>また、今年度は、みらい平中学校の開校に向けた最終年度でもあります。建設工事につきましては、概ね計画どおり 順調に進んでいるところでございます。開校準備委員会では、制服が決定するなど、令和9年度の開校に向けた準備が整いつつあります。引き続き、子どもたちが 安心して 新たな学校生活をスタートできるよう、開校準備を進めてまいります。</p> <p>本日の会議につきましては、これからの教育行政の推進を図っていくうえでも、皆様から 忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。私からのあいさつとさせていただきます。</p> <p>本日は、どうぞよろしく申し上げます。</p>
<p>堀越学校総務課長補佐</p> <p>小田川市長</p>	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>なお、お時間に限りがございますので、各課15分程度を目安に進行してまいります。</p> <p>それでは、議事進行につきましては、つくばみらい市 総合教育会議運営要綱第4条 第3項の規定により、議長は、市長となっておりますので、小田川市長 お願いいたします。</p> <p>それでは、つくばみらい市 総合教育会議 運営要綱に基づき、議事を進行させていただきます。</p>
<p>海老原学校総務課長</p> <p>小田川市長</p> <p>飯田委員</p> <p>海老原学校総務課長</p>	<p>(1) 令和8年度 教育施策に関する意見交換について、学校総務課から説明をお願いします。</p> <p>【議事に対する説明（学校教育施設の跡地利用について）】</p> <p>ただいま、担当課の説明が終わりました。</p> <p>ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p> <p>現時点で素案はありますでしょうか。</p> <p>資料2ページに、これまでの跡地利用活用事例を挙げております。学校施設は教育財産になるため、まずは教育財産として活用することができないか検討しているところです。そのため、現在、教育委員会内で活用案を調</p>

<p>飯田委員</p>	<p>査中になります。</p> <p>学校施設は特殊な構造をしているため、教育財産としての活用にこだわると、限定的な利活用方法にとどまってしまう懸念があります。他自治体の先進事例なども広く参考にさせていただき、市として、真に市民の利益となるような跡地利用を検討いただきたいと思います。</p>
<p>小田川市長</p>	<p>暫時休憩いたします。</p> <p>(午前9時47分 休憩)</p> <p>(午前9時50分 開議)</p>
<p>久下委員</p>	<p>それでは、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。</p> <p>可能であれば、やはり学校施設としての機能を活かした活用を第一に検討いただきたいと思います。</p> <p>また、市全体として文化的資料の保管や展示を行う場所が不足しているという現状もあります。市民が地域の文化や芸術に触れることができ、かつ、気軽に集えるような交流拠点の整備についても、併せてご検討いただければ幸いです。</p>
<p>小田川市長</p>	<p>当市は文化的施設が少なく、そういったアカデミックな部分においては、他市町村より遅れていると感じています。費用はかかるかもしれませんが、市民に喜んでもらえるような施設を作っていくことも必要だと考えています。</p>
<p>久下委員 高橋職務代理者</p>	<p>ぜひよろしく願いいたします。</p> <p>跡地利用の検討は大変かと存じますが、未活用とならないよう適切な対応をお願いいたします。</p>
<p>小田川市長 安河内委員</p>	<p>また、わかくさ幼稚園は現在避難所に指定されており、地域住民としては、跡地利用後も避難所としての機能を残してほしいという強い思いがあります。そのため、跡地を防災について学べる「防災センター」として活用するのも一案ではないでしょうか。</p> <p>次に、谷和原小学校の大規模改修工事中に、谷和原中学校を仮校舎として活用する案には賛成いたします。仮校舎としての活用終了後は、グラウンドやプールを他学校が共同で利用できるようにしたり、校舎を文化的資料の保管や展示等に活用したりするなど、有効な利活用を検討いただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。その他、ご意見ご質問等はありませんでしょうか。市として、文化的資料や埋蔵文化財等を適切に保管・展示できる拠点の整備は早急に必要であると考えます。また、現時点では市内に市民ホールが不足しているという課題もあります。</p> <p>次に、閉校となる学校施設については、これまで市としてLED化や体育館への空調設備設置など、多額の予算を投じて環境改善を図ってこられたと認識しています。しかし、閉校によってそれらの設備が無用となってしまう、市民からは「税金の無駄使いではないか」との批判を招きかねません。これまでの投資を無駄にしないよう、跡地利用については、より慎重</p>

<p>小田川市長</p> <p>佐藤教育指導課長</p> <p>小田川市長</p>	<p>かつ将来を見据えた検討をお願いしたいと考えます。</p> <p>また、わかくさ幼稚園の跡地利用につきましては、当該地が浸水想定地域内であるという防災上の課題もございます。安全性の確保は最優先事項ですので、この点を十分に考慮した計画策定を強く求めます。</p> <p>ありがとうございました。その他、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、担当課は ご意見など参考に事業を進めてください。</p> <p>続いて、教育指導課から説明をお願いします。</p>
<p>【議事に対する説明（不登校児童生徒支援事業について）】</p> <p>小田川市長</p>	<p>ただいま、担当課の説明が終わりました。</p> <p>ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>今年度から、従来の中学校に加えて小学校2校にも校内フリースペースを開設されたとのことですが、現在の利用状況はいかがでしょうか。</p>
<p>佐藤教育指導課長</p>	<p>開設からまだ2か月ほどしか経過しておりませんが、小学校の2校においても既に利用者がある状況です。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>運営体制としては、先行して実施している中学校の校内フリースペースと同様のイメージでしょうか。</p>
<p>佐藤教育指導課長</p>	<p>はい、中学校と同様です。小学校にもそれぞれ支援員を配置して対応しております。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>ありがとうございます。実際に不登校児童が増加してくるのは2学期以降だと予想されますので、今後の利用状況を注視していく必要がありますね。将来的には、全ての学校にこのようなスペースが開設されることを期待いたします。</p>
<p>佐藤教育指導課長</p>	<p>関連して、支援員1人あたりの相談実施件数はどのような状況でしょうか。また、現在の配置人員で足りているのか、見解をお聞かせください。</p> <p>昨年度までは適応支援教室にスクールカウンセラーを配置しておりましたが、検査等の予約が非常に混み合い、対応が追いつかない状況が続いておりました。</p> <p>今年度からは新たに支援員を追加配置いたしましたので、これにより相談体制の逼迫状況を改善していきたいと考えております。</p>
<p>久下委員</p>	<p>近年の不登校児童生徒の増加の現状を目の当たりにし、大変危機感を抱いております。市としては、児童生徒が不登校に至った背景や原因について、詳細な調査・分析を行っているのでしょうか。</p> <p>また、近年の教科書改訂に伴う学習内容の高度化により、授業についていけなくなったことが不登校の一因となっているケースも増えているのではないかと懸念しております。これは国全体の問題でもありますが、現場の教員や子どもたちはこの厳しい状況をどのように乗り越えているのでしょうか。授業についていけなくなった子どもたちをしっかりとフォローする体制が不可欠だと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>佐藤教育指導課長</p>	<p>令和2年から令和4年にかけての不登校児童生徒の増加につきましては、コロナ禍の影響が非常に大きいと分析しております。感染症対策に伴う生</p>

<p>久下委員 高橋職務代理者</p>	<p>活環境の急激な変化や、それに伴う登校意欲の低下などが主な要因と考えられます。</p> <p>原因調査につきましては毎年実施しており、国への報告も行っております。なお、近年の状況としては、「漠然としたやる気が出ない」「不安感がある」といった、本人ですら明確な理由が分からないというケースが増加している傾向にあります。今後は、デジタル教科書やICTを効果的に活用し、児童生徒一人ひとりの特性に応じた個別の学びの支援を展開してまいりたいと考えております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>不登校児童生徒への対応は、個々の状況に寄り添う必要があるため非常に困難も多いことと存じます。</p> <p>現在、校内フリースペースや総合教育支援センターなどの施設にさえ足を運ぶことができず、家庭に引きこもっている子、特に教員等が家庭訪問を行っても本人に面会することすらできない子へのアプローチをどうしていくかが大きな課題です。こうした深刻なケースへの対応については、スクールソーシャルワーカーなどの専門職が担うことになるのでしょうか。</p> <p>また、不登校を未然に防ぐ取り組みとして、幼小連携の強化を強く求めます。例えば、小学校の校長が定期的に幼稚園に赴き、園児と共に過ごすようなアプローチも有効ではないでしょうか。</p> <p>不登校児童生徒への学習支援と同時に、不登校そのものを防ぐ「予防」の取り組みが極めて重要だと考えます。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>私も、幼稚園・小学校・中学校の連携が不可欠だと考えます。以前から「中1プロブレム」という現象が指摘されてきましたが、最近では「小1プロブレム」に直面する子どもも増えていきます。現代は学校に通うことだけがすべてではなく、フリースペースや民間の施設など、多様な選択肢の中から子どもの特性や環境に合わせて選べる時代ではありますが、やはり不登校を未然に防ぐという観点からも、幼小中の連携強化が重要であると考えます。</p>
<p>小田川市長</p>	<p>先日、不登校をテーマにしたセミナーに参加してまいりました。そこで改めて感じたのは、日本と諸外国では「義務教育」に対する思想が根本的に異なるという点です。日本では義務教育を「子どもを学校へ通わせる義務」と捉えがちですが、世界、特に欧米などでは「親が子どもに教育を受けさせる義務」という考え方が主流です。日本では国が認可した学校へ通うことが大前提とされますが、欧米などでは「どこで勉強してもよい」とされており、親が責任を持って教育機会を担保します。</p> <p>日本の場合、小学校・中学校を卒業し、受験を経て高校、大学へ進学するという単一のルールが存在し、一度そこから外れてしまうと社会復帰が容易ではないという構造的な現状があります。これは自治体だけでなく、国全体として変革を考えていくべき課題ではないでしょうか。学校に通うという形式だけにとらわれるのではなく、「最終的にどのような人間に育って</p>

安河内委員	<p>ほしいか」「どのような人生を歩んでほしいか」という、教育の本質を見失わないことが重要であると考えております。</p> <p>中学校卒業後における不登校傾向の生徒への支援体制について、市としては具体的にどのようなビジョンをお持ちでしょうか。</p> <p>卒業後に適切な社会的繋がりや知識がないために、予期せぬ犯罪やトラブルに巻き込まれることがないように、継続してサポートしていく体制が極めて重要です。しかしながら、現代の学校の先生方は、日々の授業準備に加えて生徒指導、家庭訪問、保護者からの苦情対応など、業務量が過大となっています。そのため、スクールソーシャルワーカーをはじめとする、専門的な外部人材をさらに増員していく必要があると考えます。</p> <p>また、学習についていけなくなったことで不登校になる児童生徒が増加している一方で、保護者の心情としては「普通学級に通わせ、そのまま進学してほしい」という願いが強い場合も多く、学校側と保護者との意識のすり合わせも現場の課題であると感じます。</p> <p>さらに、学校によって提供できる学びの環境やリソースが異なるという、「学校間の教育格差」という問題についても注視していく必要があると考えます。</p>
小田川市長	<p>皆さま、ありがとうございます。その他、ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p> <p>それでは、担当課は ご意見など参考に事業を進めてください。</p> <p>続いて、生涯学習課から説明をお願いします。</p>
千葉生涯学習課長	<p>【議事に対する説明（図書館の在り方について）】</p>
小田川市長	<p>ただいま、担当課の説明が終わりました。</p>
	<p>ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p>
飯田委員	<p>市内の様々な施設を巡回する移動図書館を導入すれば、非常に高いニーズがあるのではないかと考えます。</p> <p>より市民のニーズに寄り添った図書館のあり方を模索していただきたい。あるいは、多少距離が遠くても「ぜひ行ってみたい」と市民に思ってもらえるような、魅力ある図書館づくりを目指していただきたいと考えます。</p>
安河内委員	<p>本を手に取り、自分自身で選んで借りることこそが図書館の醍醐味であると考えます。しかし、交通手段の確保が難しいなど、自力で図書館へ足を運ぶことが困難な市民も多くいらっしゃいます。</p> <p>人が集まる拠点で移動図書館を開催するなど、図書館の側から市民のニーズに応じて「出向いていく」というアプローチも、今後は必要ではないでしょうか。</p>
千葉生涯学習課長	<p>現在、学校を対象とした移動図書館は実施しておりますが、一般市民の方向けの巡回サービスは実施しておりません。今後に向けた貴重なご意見として、前向きに検討を進めてまいりたいと思います。</p>
小田川市長	<p>その他、ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p>
高橋職務代理者	<p>現在、図書館では様々な行事やイベントが開催されているかと思えます。</p>

<p>小田川市長</p>	<p>今後は、市内の公立・私立を問わず、すべての幼稚園や保育園の児童に対して、図書館で本と触れ合える機会を設けていただきたいと思います。</p> <p>また、例えば市で「健康講座」を開催する際には、会場に健康に関する書籍の特設コーナーを設けるなど、市内の他の講座やイベントと図書館がソフト面で連携していく取り組みについても、併せて検討いただきたいと思います。</p> <p>皆さま、ありがとうございます。その他、ご意見ご質問等がありますでしょうか。</p> <p>それでは、担当課は ご意見など参考に事業を進めてください。</p> <p>次に、(2) その他になりますが、議事以外の何かご意見などございますか。特にないようですので、本日の議事については、以上で終了します。</p> <p>議事進行につきましては、事務局へ戻します。</p> <p>委員の皆さま ご協力ありがとうございました。</p>
<p>堀越学校総務課長補佐</p>	<p>【令和8年度第1回つくばみらい市総合教育会議の閉会宣言】</p> <p>市長、議事進行ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和8年度 第1回 つくばみらい市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

上記決議を明確にするため、本議事録を作成する。

令和8年5月25日

市 長
教 育 長

小田川 浩
町 田 幸 子